

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

令和元年6月

一関工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	一関工業高等専門学校
2. 所在地	岩手県一関市萩荘字高梨
3. 学科等の構成	準学士課程：未来創造工学科 専攻科課程：生産工学専攻、物質化学工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：生産工学専攻、物質化学工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：生産工学専攻、物質化学工学専攻） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：861人 教員数：専任教員64人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>一関工業高等専門学校(以下「一関高専」とする。)が、所在する岩手県一関市は、県庁所在地である盛岡市から約90 km 南に離れた県最南端の人口約12万人の地方都市である。一関市の人口集中部は北上盆地南端に位置し、周囲は栗駒山を代表とする山々に囲われ、南にはラムサール条約に登録され水鳥が生息する伊豆沼・内沼が広がっており、四季折々の色彩が映える自然豊かな環境にある。一関市の近隣には平成23年に世界遺産に選ばれた中尊寺を中心とする平泉文化遺産群があり、当地は古よりの佇まいを今なお色濃く残している。さらに、文化面でも現在の東北大学医学部の系譜に連なる江戸時代の仙台藩校養賢堂で教鞭をとった建部清庵や大槻玄沢など多くの知識人を輩出しており、一関市は自然や伝統と学術的風土が長年にかけて融合した地域を代表する文化的都市である。</p> <p>一関高専は、一関市民からの強い誘致要望を受け、いわゆる国立工業高等専門学校(以下「国立高専」とする。)の第2期校として昭和39年4月1日に岩手県一関市萩荘地区に開学した。開学当初は機械工学科2学級、電気工学科1学級の2学科3学級体制であったが、高度経済成長下の昭和40年代に化学物質による環境問題の深刻さが増す中で、社会の要請に対応すべく昭和44年4月1日に化学工学科が増設された。その後10年以上にわたり3学科4学級体制で推移したが、技術動向の変化に対応すべく平成元年4月に従来の機械工学科の2学級のうち1学級が分離して制御情報工学科として改組され、現在の構成の源流となる4学科4学級体制が確立した。その後も、平成7年4月に化学工学科が物質化学工学科に、平成15年4月には電気工学科が電気情報工学科にそれぞれ改組された。平成16年4月からの国立高専の独立行政法人化を経て、平成29年4月に機械工学科、電気情報工学科、制御情報工学科、物質化学工学科の4学科体制から、機械・知能系、電気・電子系、情報・ソフトウェア系、化学・バイオ系の4系からなる未来創造工学科の1学科体制に改組された。令和元年度の準学士課程は、第1学年から第3学年までが未来創造工学科で、第4学年から第5学年までが改組前の4学科となっており、令和2年度までは改組前後の学科が併存する。</p> <p>本校の目的は学則第1条に「本校は、教育基本法の本質にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と謳われており、その目的を達成するために、以下の6つの教育目標が設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の一員として活動できる技術者 ・誠実で豊かな人間性と広い視野をもつ技術者 ・広い分野の基礎知識と優れた創造力・開発力をもつ技術者 ・継続的に努力する姿勢とさかんな研究心をもつ技術者 ・協調性と積極性をもち信頼される技術者 ・技術と社会や自然との係わりを理解し社会的責任を自覚できる技術者 <p>一関高専で開設されている準学士課程の科目はこれらの各教育目標と関連付けられ、開学以来一関高専の卒業生は社会的な評価が高いことが特徴である。昨今では、一関高専はグローバルに活躍できる実践的・創造的な技術者を養成するための教育を重要視しており、海外留学の促進や地域企業技術者と連携した授業の導入、さらに地域企業と共同で開発した教育用電気自動車キットを用いた授業の導入など優れた教育プログラムを実践している。</p>	

一関工業高等専門学校

専攻科は、機械工学科、電気情報工学科および制御情報工学科を基盤とする生産工学専攻と物質化学工学科を基盤とする物質化学工学専攻の2専攻として、平成13年4月に開設された。専攻科は、準学士課程5年間の基礎の上にさらに深い専門性と実践的な能力を修得する課程であり、学術的な研究活動にも重点が置かれている。専攻科は、平成27年度に(独)大学改革支援・学位授与機構(平成27年次には(独)大学評価・学位授与機構)により特例適用専攻科の認定を受け、本校専攻科修了時に学士(工学)の学位が取得できることになった。

研究活動においては、一関高専に隣接する(公財)岩手県南技術研究センター(以下「県南技研」とする。)との連携が強みである。県南技研が所有する最先端の分析機器を一関高専の教員および学生も使用でき、地域企業との共同研究の遂行に大いに貢献している。また県南技研との連携は研究面にとどまらず、地域企業技術者を対象とした人材育成講座でも密接な連携をとっている。さらに、一関市は盛岡市と仙台市のほぼ中間に位置するため、一関高専は岩手大学や東北大学との連携関係構築にも力を入れている。

以上述べたとおり、一関高専は時代のニーズを的確に捉えた実践的・創造的技術者の養成教育に強みがあり、さらに地理的特性を生かして県南技研や近隣高等教育機関と連携した研究活動が行える環境にあり、これらの特長は一関高専の目的の達成に大きく寄与している。

II 目的

1. 目的

1.1 学校の目的：「本校は、教育基本法にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

(一関工業高等専門学校学則第1条)

1.2 準学士課程の目的

○平成29年度以降入学生用の目的(1学科に改組後)

未来創造工学科の目的：「歴史・文化・伝統を尊重しつつ持続可能社会の形成に向けた貢献ができ、さらに実践的な専門知識と技術を活用しながらグローバル社会で活躍できる創造的な人材を育成することを目的とする。」(一関工業高等専門学校学則第8条第2項)

機械・知能系の目的：「機械工学を基盤とした設計、機械要素、材料、加工、力学、熱流体、制御、計測等の専門知識を学修するとともに、実験・実習・研究などの課題発見・課題解決型教育を通して、実践的かつ異分野横断的に機械系分野の技術を修得する。さらに、次世代ロボット、EVなどの次世代自動車、再生可能エネルギー利用などの応用的な分野で必要となる専門知識や技術を修得することにより、実践的・創造的技術を有する次世代の機械系技術者を養成する。」

電気・電子系の目的：「電気工学および電子工学にかかわる電気磁気現象、電気回路、電子回路、電気機器、電力、材料、エネルギー等の専門知識を学修するとともに、実験・実習・研究などの課題発見・課題解決型教育を通して、実践的かつ横断的に電気・電子分野の技術を修得する。さらに、電子機器や自動車の制御など応用的な分野や電力分野で必要となる専門知識や技術を修得することにより、実践的・創造的技術を有する次世代の電気系技術者を養成する。」

情報・ソフトウェア系の目的：「情報工学にかかわるソフトウェア設計、データ構造とアルゴリズム、ネットワークシステム、人工知能、符号理論等の専門知識を学修するとともに、実験・実習・研究などの課題発見・課題解決型教育を通して、実践的かつ横断的に情報・ソフトウェア分野の技術を修得する。さらに、ロボットや自動車の制御など応用的な分野で必要となる専門知識や技術を修得することにより、実践的・創造的技術を有する次世代の情報系技術者を養成する。」

化学・バイオ系の目的：「化学製品を効率的に生産するための「化学工学」と、微生物や酵素を利用するための「生物工学」を中心に、化学プロセスや計測制御、生化学や微生物工学などの専門知識を学修するとともに、反応工学や計測制御、酵素反応や遺伝子工学などの実験を行うことによって、実践的かつ横断的に化学・バイオ分野の基礎を修得する。さらに、環境・エネルギー問題にも正しい知識と関心を持ちながら、生活を豊かにする化学製品（プラスチック、医薬品、食品、新素材など）の製造や分析に関わる技術を修得し、化学工業や石油、食品、医薬品製造、環境分析の分野で活躍する次世代の化学・バイオ系技術者を養成する。」

○平成28年度以前の入学生用の目的

機械工学科の目的：「設計・製作に強く幅広い分野で活躍できる機械技術者の養成を行うことを目的とする。」

電気情報工学科の目的：「エネルギー及び電気・情報技術分野等において幅広く活躍できる電気技術者の養成を行うことを目的とする。」

制御情報工学科の目的：「機械制御及び情報技術分野等において幅広く活躍できる制御・情報技術者の養成を行うことを目的とする。」

物質化学工学科の目的：「物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者の養成を行うことを目的とする。」

(一関工業高等専門学校学則附則第3項)

1.3 専攻科課程の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(一関工業高等専門学校学則第 42 条)

生産工学専攻の目的：「機械、電気電子、情報工学等の基礎的専門分野を基盤とし、それぞれ得意とする専門領域の深い知識・能力を持つとともに、異なる分野の基本的素養を兼ね備え、新技術の開発や新分野への展開等に柔軟に対応できる創造性豊かな研究開発型の技術者を養成する。」

物質化学工学専攻の目的：「環境、エネルギー、材料、バイオなどの広範な分野に関心を持ち、化学工学および生物工学の知識を駆使して、環境に配慮した新技術や新物質の創成、工業製品のプロセス開発等に対応できる化学技術者を養成する。」

(一関工業高等専門学校学則第 43 条第 2 項)

2. 教育理念

明日を拓く創造性豊かな実践的技術者の育成

3. 教育目標

学校の目的等を達成するために、以下の 6 つの教育目標が定められている。

- A 国際社会の一員として活動できる技術者
- B 誠実で豊かな人間性と広い視野をもつ技術者
- C 広い分野の基礎知識と優れた創造力・開発力をもつ技術者
- D 継続的に努力する姿勢とさかんな研究心をもつ技術者
- E 協調性と積極性をもち信頼される技術者
- F 技術と社会や自然との係わりを理解し社会的責任を自覚できる技術者

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p>評価の視点</p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-①-(1)-1_研究活動の目的(一関工業高等専門学校学則第1条2項)(Web)</p> <p>https://www.ichinoseki.ac.jp/files/c0aa779a3a8ac2f0132cedd2257e3fa10.pdf</p> <p>・資料 A-1-①-(1)-2_研究活動に関する組織(地域共同テクノセンター規則)(Web)</p> <p>https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf</p> <p>・資料 A-1-①-(1)-3_研究活動に関する組織(平成31年度第1回教員会議「資料5」地域共同テクノセンター報告：平成31年度の体制、「資料7」校長補佐(研究担当)報告：平成31年度の体制)</p> <p>※地域の研究活動(岩手県、宮城県ファンド)は地域共同テクノセンター地域イノベーション部門で、それ以外の研究活動(主に科研費、JST等の外部資金獲得)は校長補佐(研究担当)で対応することに決まった。</p> <p>・資料 A-1-①-(1)-4_研究活動の目的・基本方針・目標(令和元年年第3回運営委員会 資料2「本校の研究活動及び地域貢献活動の目的・基本方針・目標」)</p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 資料 A-1-①-(1)-2_目的ごとの実施体制の整備(地域共同テクノセンター規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf ・資料 A-1-②-(1)- 1_目的ごとの実施体制の整備(地域共同テクノセンター共同研究室利用細則) ・資料 A-1-②-(1)- 2_目的ごとの実施体制の整備(地域共同テクノセンター知的財産部会規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/71de8f02c9ff363533d879b38de0a52a0.pdf
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 資料資料 A-1-①-(1)-2_目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料(地域共同テクノセンター規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf ・資料 A-1-②-(2)-1_教員の研究テーマと研究設備(地域共同テクノセンター報 2018[pp.11-16])(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/techc/files/2018/techc_report_2018.pdf
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 資料 A-1-①-(1)-2_目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料(地域共同テクノセンター規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf ・資料 A-1-②-(3)-1_目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料「岩手県南技術研究センター」支援規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/6827a04b501fe46f6f4362fca95ff8570.pdf

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 A-1-②-(3)-2_支援体制(研究重点教員規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/131044a5b37fc6f980df1568cd6a70f90.pdf ・資料 A-1-②-(3)-3_支援体制(研究成果公開促進経費) ・資料 A-1-②-(3)-4_支援体制(平成 30 年度科研費勉強会開催通知・資料) ・資料 A-1-②-(3)-5_支援体制(平成 30 年度第 5 回教員会議資料「資料 4」平成 30 年度科研費勉強会実施報告)
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている □行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 A-1-②-(4)-1_研究活動の実施状況が分かる資料(平成 29 年度地域共同テクノセンター運営委員会「自己点検評価報告書」 pp.6-7 研究推進部門) ・資料 A-1-②-(4)-2_研究活動の実施状況が分かる資料(外部資金受入状況 (H29-H30)) ・資料 A-1-②-(4)-3_岩手県南技術研究センターとの研究(平成 28 年度第 3 回教員会議資料(資料 4「県南技研「ものづくり産業技術開発推進事業」採択結果」) ・資料 A-1-2-(4)-4_研究重点教員(平成 30 年度第 11 回運営委員会「資料 16」平成 31 年度研究重点教員) ・(再掲) 資料 A-1-②-(3)-4_支援体制(研究成果公開促進経費)
<p>観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■得られている □得られていない</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 資料 A-1-②-(4)-1_研究活動の実施状況が分かる資料(平成 29 年度地域共同テクノセンター運営委員会「自己点検評価報告書」 pp.6-7 研究推進部門)

	<ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 資料 A-1-②-(4)-2_目的等ごとに、活動の成果がわかる資料(外部資金受入状況 (H29-H30)) ・資料 A-1-③-(1)- 1_共同研究の学生への還元(H28 研究完了報告書) ・資料 A-1-③-(1)- 2_特許申請(出願書類)
<p>観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点 A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲) 資料 A-1-①-(1)-2_改善の体制がわかる資料(地域共同テクノセンター規則)(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf ・資料 A-1-④-(1)-1_改善の体制がわかる資料（平成 30 年度第 1 回教員会議「資料 7」地域共同テクノセンター報告：H30 年度体制） ※地域共同テクノセンター運営委員会（12 名）からテクノセンター委員会（9 名）に移行し、厚生労働省事業を中心にテクノセンターを実動可能な構成員とした。 <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>研究活動を活性化させるために、研究活動を活性化するためのアンケートを実施した（資料 A-1-④-(1)-2_具体的な改善事例（平成 27 年度第 1 回教員会議「資料 6」地域共同テクノセンター：研究活動を活性化するためのアンケート結果(1)～(3)）。その結果、校務の多忙により時間確保が困難との意見があり、校務の一部を免除する「研究重点教員」制度を希望する意見が出た。改善として研究重点教</p>

	員を配置する規則((再掲) 資料 A-1-②-(3)-3_支援体制(研究重点教員規則))を制定した。翌年度は1名の教員が研究重点教員として認められた。その教員は新規の外部資金獲得を達成しており、改善の成果が表れていると言える。
A-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断
<input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である

選択的評価事項A
優れた点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費勉強会を継続的に行っている。 ・ 科研費への申請を呼びかけ、代表申請率が大幅に向上している(H30年度代表申請率 86.5%)。 ・ JST A-STEP 機能検証フェーズ (産学バリュープログラムから) に3回連続で採択されている (他高専に例を見ない)。
改善を要する点

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

<p>評価の視点</p> <p>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</p>	
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>【留意点】</p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>・資料 B-1-①-(1)-1_地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等(地域共同テクノセンター規則)(Web)</p> <p>https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf</p> <p>・資料 B-1-①-(1)-2_研究活動の目的・基本方針・目標（令和元年度第3回運営委員会 資料2「本校の研究活動及び地域貢献活動の目的・基本方針・目標」）</p>
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料</p> <p>・(再掲) 資料 B-1-①-(1)-1_地域貢献活動等に関する具体的な方針が策定されていることがわかる資料(一関工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則)(Web)</p> <p>https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf</p>
<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>・資料 B-1-②-(2)-1_地域貢献活動等の実施状況がわかる資料(09-1_H29 地域共同テクノセンター運営委員会自己点検評価報告書)</p>

<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。</p> <p>■認められる □認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）</p> <p>・資料 B-1-③-(1)-1_地域貢献活動等の成果がわかる資料（H28年度各EV01～09全アンケート集計）</p> <p>・資料 B-1-③-(1)-2_地域貢献活動等の成果がわかる資料（H30年度EV人財育成事業業務完了報告書）</p>
<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</p> <p>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>・（再掲）資料 B-1-①-(1)-1_改善の体制が分かる資料（一関工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則）(Web) https://www.ichinoseki.ac.jp/files/1f9bbe94b0253a7a06061429b737264c0.pdf</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>公開講座や出前講座は該当学科あるいは特定の教員が請け負うケースが多く、学校としての支援や管理が不十分であったため、特定の教員の負担が大きくなっていた。そこで、テクノセンターが窓口となり担当の割り振り調整や管理などを行えるよう、公開講座・出前講座の事前申請制度を始めた(資料 B-1-④-(1)-1_具体的な改善事例（地域共同テクノセンター運営委員会 年間活動報告(H27年度)</p>
<p>B-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性</p>	

や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。
・資料 B-1-③-(1)-1_地域貢献活動等の成果がわかる資料で示した EV アカデミーの他に品質工学、原価管理、MOT、CAD、CSWA などの講座を実施している。

選択的評価事項B 目的の達成状況の判断
<input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である

選択的評価事項B
優れた点
・ 社会人向けの講座を多く行っており、アンケート結果も良好で参加者の評価が高い。 ・ 厚生労働省地域創生人材育成事業 EV 人材育成コースに採択され、地方の人財育成に関する事業を展開している。
改善を要する点